

**Q. 地震などの災害による火災に対する備えは？** (11 択+何もしていない)

◇過半数が「市販のミネラルウォーターを買い置き」

◇約4割の家庭で「消火器を常備」、約3割の家庭で「風呂の水を溜めておく」

震災に伴う火災は、住宅が密集している大都市圏では特に深刻な問題です。地震などによって水道が止まってしまったときに発生する火災に対して、どのような形で備えているかを聞いたところ、トップは「市販のミネラルウォーターを買い置きしておく」で過半数（51.3%）の人が実施。「消火器を常備している」（40.3%）、「風呂の水をいつも溜めておく」（29.9%）が続きました。

「消火器を常備している」と「風呂の水をいつも溜めておく」を居住地別に見ると、いずれも東京圏での実施率が全体より高いのに対し、中京圏では両者とも低い実施率にとどまっています。また、「消火栓や防火水槽の場所」は5人に1人（19.3%）しか知らないというのが現状のようです。

なお、「近所づきあいをかかさない」は13.9%と、昨年の18.9%から5ポイント減。特に大阪圏では、昨年の27.7%を大きく下回る結果となりました。大都市圏において、地域のコミュニティ意識が希薄になりつつある傾向がうかがえます。

